

「 スポーツドクターに相談しよう 」

須川 勲 （須川整形外科医院：浜松市）



スポーツ・ドクター（SD）制ができて30年以上になります。県内でも身近にSDは居ますが、おそらくどの医師がSDであるかお判りにならないでしょう。

現在、3種類のSD制があります。

①日体協 SD： 日本体育協会のものです

各競技団体から実績のある先生が推薦され認定されます。整形外科が一番多いのですが、ボクシングやラグビーでは脳外科の先生も多いです。

②次に、日本整形外科学会のスポーツ医です

スポーツをやるために、四肢、背骨の傷害を予防・治療しようというものです。

③日本医師会の健康スポーツ医

競技スポーツよりも健康スポーツを支えるためのSDです。

このように、色々な角度から国民のスポーツ・生活を支えるためにできた制度です。

しかし、外部に広告などして「標榜」することは禁止されていますので一般の人には判らないのです。

さて、整形外科の歴史は100年を超えますが、50年前から背骨、股関節・膝関節、肩・手の外科など部位別に専門分化しました。スポーツ全体を支え、その予防・治療する専門家ができたのが45年前です。

SDは、スポーツ医学と現場をつなぐ架け橋となりますが、経験と実績を積むことが必要です。各競技のTop teamを支えるSD、PT、トレーナーは丸となって選手をサポートする中で今や世界的レベルに到達しました。

その最たるものが、東京・西が丘の国立スポーツ科学センターです。各競技に特化したトレーナー、PT、医師が結集して世界で勝てる国際的競技力向上を目指します。

さて、それを下支えすべきスポーツ・ドクターですが、世界に類を見ない国民皆保険（誰でも何処でも等しく最高の医療が受けられる）の影響で、医師は自分の専門分野以外も診療せざるを得ません。従って、SDでも、診療が忙しくて現場にはなかなか行けません。

私事で恐縮ですが、肩から手の外科の専門医として浜松に赴任してから、すぐにヤマハ野球部、カワイ体操部の選手の面倒を見ることになりました。膝の障害も診るうちにHonda FCのチームドクターとなり20年間試合に帯同しました。後半は、Bjリーグの浜松東三河フェニックスも見ることになりました。現場に立ち会うことにより、現場復帰に何が必要なのかも判るようになり治療以外に適切な指導が可能になります。

経験と実績を積んでこそ「スポーツが判るドクター」になれます。

県内にも、沢山のSDが居ります。日常の診療が忙しくなかなか現場には行けませんが、皆さんが利用なさることで、我々も研鑽できます。どうか気軽にご相談ください。

この度、静岡県高校野球連盟（高野連）よりメディカル・サポートMS（県理学療法士PT協会は10年前から高野連のMS事業をおこなっています）の依頼をうけて、2～3年掛けてサポート体制を構築することになりました。

東・中・西部の各地に、「野球を診られる」「野球選手の面倒を見られる」開業医を7～8名配します。その上に、PTによる投球指導や必要なら手術もできるバックアップ病院を用意しました。各地区の医師はPTと協力して3年間は障害予防の講習会と実技を静岡市で年1回行い、その後は各地区で年に2～3個所の高校に出張して講義と実技の指導をします。

このようにして、スポーツ選手と交わりを持ち、皆様にまず、スポーツ・ドクターの存在を認識して頂こうと考えています。

